

# デザインと技術の 折り合いのとれた家具造り

有限公司 福山工芸

専務取締役 福山 貴文さん



大川で七十年以上の歴史をもつ木工所、(有)福山工芸にスポットライトを当ててみた。景気低迷の中、安定した受注を確保している企業だ。

福山工芸の特長の一つは、ユニークなデザイン。三代目で専務の福山貴文さんは、「デザインには力を入れています!」と話される。他のメーカーには見られない個性的な家具が多い。それは京都のデザイントラストとタイアップして、デザイン性豊かな家具を作り続けているからだ。

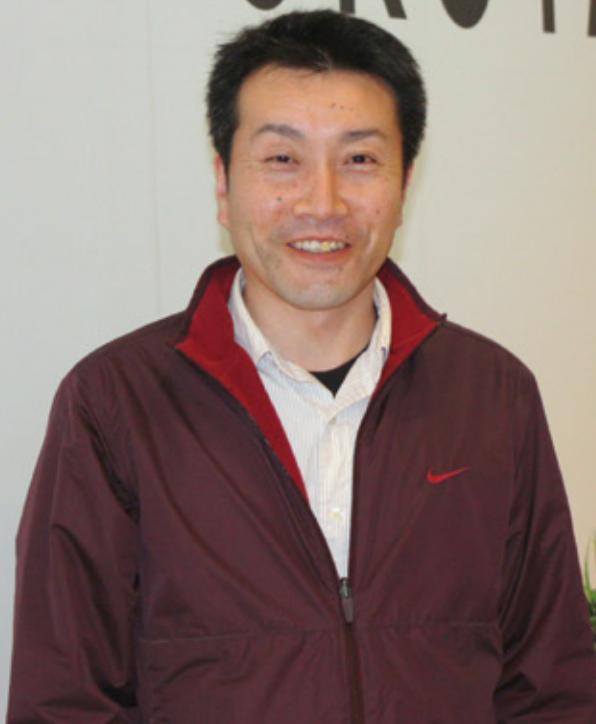
七年前から共同制作をして

いる京都のデザイン事務所は、ネットショッピングも運営している。現在その売り上げが好調だという。

そのデザイナーたちは、ネットショッピングを手がけている関係で、売れる商品、その傾向についての豊富なデータを持っていて。企画・デザインにそれが反映していくのだ。

しかし、「こだわりの家具」は、このデザイナーグループとの「押し合い」の中で生まれてくると福山さんは言う。

「先方は、販売面、デザイン





Esse



Sharme

「家具の特定部分のデザインについて、それが美しく見えても、強度が弱く、破損などの原因になることがあります。彼らのこだわりに流されれば、最悪の場合メーカー不良になると元も子もありません。そこで協議をしながら、着地点を見いだしていくのです。」  
このようにして年に四～五シリーズぐらい、展示会のタイミングに合わせて試作をす

るという。現在ネットショッピングに供給している商品が全体で五十%を占めている。それらの商品のほとんどはコンパクトなサイズ。しかもリーズナブルな価格設定だ。かといって品質を落とさない努力もしている。

福山工芸の別の特長は、OEM生産。売り上げの四十%を占める。これは技術力の裏打ちともいえるだろう。

こうして話を聞いてくると、福山工芸が、「時代の流れに対応した商品づくり」を行つていることがよく分かる。  
その点を聞いてみたが、福山さんは、「強い意志を持つて選択をしてきたというより、自然体、時流に対応する柔軟



アルダーの天然木とシートで仕上げたナチュラルスタイルのミドルボード。場所も取らない奥行30cmのスリムタイプ

Weet



Byon

夢は何だろうか。  
「まずは、この経営状況を維持することが一番と思っています。非常に難しい時代ですかね。それから、これは本当に理想なんですけど、アンテナショップを作つて対面販売ができるようになればいい、と思っています。そして、工房的な感覚の商品作りにも挑戦できればと思います。」

